

平成 30 年 5 月 31 日現在

機関番号：34419

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2014～2017

課題番号：26300014

研究課題名 (和文) アフリカ半乾燥地の農牧民社会における食料安全保障と土地収奪の政治経済学的研究

研究課題名 (英文) A Study on Political Economy of Food Security and Land Grabbing among Agro-pastoralist Communities in Semi-arid Africa

研究代表者

鶴田 格 (TSURUTA, Tadasu)

近畿大学・農学部・教授

研究者番号：60340767

交付決定額 (研究期間全体) : (直接経費) 12,300,000 円

研究成果の概要 (和文) : 本研究では、タンザニア中部の半乾燥地ドドマ州の農牧民村落を主たる対象として、人口増による土地不足や干ばつによる食料不足に地域住民がどのように対応してきたのかを、社会階層別の家計調査、食料消費調査、土地利用の変遷と一部富裕層による土地集積などのデータを分析することによって明らかにした。そこでは従来の粗放的な土地利用が困難になりつつあるなか、湿地帯など未利用地への進出や、農牧業以外の収入源の多様化が起こっていた。またドドマ州の別の地域では、中小規模の土地の囲い込みとトラクターの増加が深刻な土地問題を引き起こしていること、また農牧という生業形態がそうした事態の悪化に拍車をかけていることを示した。

研究成果の概要 (英文) : This study revealed how villagers in the semi-arid Dodoma Region, central Tanzania, secured everyday food in spite of a shortage of and a degradation in land for farming and grazing. As an overall shortage of land makes it difficult to maintain the semi-nomadic way of “traditional” agro-pastoralism, farmlands have expanded into hitherto underutilized riversides and seasonal swamps. At the same time, villagers have increasingly engaged in income-generating measures other than farming and livestock keeping, many of which are dependent upon dwindling forest resources. In some frontier areas of Dodoma Region, an increasing number of cases of small and medium-scale land enclosures by wealthy investors and agro-pastoralist migrants have led to bitter competition for land. Coupled with the rapid increase in the number of tractors, a commercialized form of agro-pastoralism aggravates the land problems even further due to the mutually reinforcing relationship between farming and pastoralism.

研究分野：農村社会学

キーワード：アフリカ半乾燥地 農牧民 食料安全保障 土地収奪 農村開発

## 1. 研究開始当初の背景

(1) アフリカ諸国では、農地の取得を容易にして民間資本を積極的に導入し、経営規模拡大による農業生産の効率化を図るための政策を近年導入している。タンザニアにおいても外国資本による大規模な農地取得が盛んになっており、そうした行為は地元の小農民を排除し生活の糧を奪う「土地収奪」であるとして非難されてきた。牧畜民や農牧民が多く暮らし土地を巡る権利関係が曖昧な半乾燥地は、こうした土地収奪の主要なターゲットのひとつとなってきた。またこうした半乾燥地の住民は、農業生産が不安定なために慢性的な食料不足に苦しんできた。

(2) 申請者らはこれまで杉村和彦（福井県立大学）を中心にアフリカ農村のモラル・エコノミー（生活規範に支えられた広義の経済）に関する理論的・実証的研究を行ってきた。2010年からはタンザニア中部の半乾燥地ドドマ州を拠点として、農牧民ゴゴを対象とした定着調査を実施した。その過程で、人口圧からくる土地不足により、従来のような粗放的な農業・牧畜複合経営が困難になっていると同時に、一部富裕層による土地集積が進んでいることがわかった。またそれまで人口が希薄だったドドマ州内のフロンティア地域では、外国資本などによる典型的な「土地収奪」ではなく、地元エリートや外来の民族などによる中小規模の土地の占拠や囲い込みが進行していることもわかった。こうして急激にすすむ土地の不足と占有という事態が、既存の農牧業や土地利用・所有慣行との間にどのような矛盾を生み出しているのか、また一般の住民がどのような食料確保戦略の変更を強いられているのか、といった点に関する詳細な研究はこれまでなかった。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、中部タンザニアを事例地として、近年アフリカで進行している土地の急速な商品化・囲い込み・占有などが地元住民の食料安全保障に及ぼす影響を明らかにすることである。とりわけアフリカ半乾燥地に特有の「農牧」という生業形態に注目し、その伝統的な土地利用方式が、大小さまざまな規模の土地囲い込みによってどのような変容を強いられているのかを解明するものである。同時に、半乾燥地に特有の慢性的・日常的な「飢え」に対する地元住民の対処方法がどのように変わってきたのかを明らかにする。また、急速な土地囲い込みの背景にある政府の農業近代化政策と自給的・伝統的農牧業との矛盾を、具体的な事例に即して分析する。

## 3. 研究の方法

### (1) 村落社会におけるデータ収集

本研究の中心となるフィールド調査は以下の三つの拠点において行われた。

①これまで代表者らが調査拠点としてきた

ドドマ州 Majeleko 村において、食料不足時の食料確保方法、貨幣経済の浸透が食料安全保障に与える影響、土地不足がもたらす農地・牧草地の利用法の変化、主要な財産である牛の数の多寡が食料や土地などの資源へのアクセスにもたらす影響、などの諸点について、家計調査、個別インタビューや参与観察などの手法によりデータを収集した。

②おなじドドマ州の Itiso 地区では、外部からの農牧民の大量流入や、都市エリートによる中規模土地収奪が地元住民の食料安全保障に与える影響や、土地不足や森林破壊の現状について、現地の森林官、ドドマ大学 Mwamfupe 教授のチームならびにドドマ市の NGO と協力して広域的なサーベイを行った。

③ドドマ州北西部 Farkwa 村近郊においては、外部からの農牧民の流入や、現在計画されている大規模なダム建設などの開発が、社会構造や食料生産におよぼす影響について聞き取り調査をおこなった。

### (2) NGO への取材

ドドマ州周辺や主都ダルエスサラームで農村開発や農牧民の権利保護といった分野で活動している NGO を訪問し、タンザニアにおける農業投資の状況や、土地紛争に関する聞き取り調査と資料収集を行った。

### (3) 国際研究集会の開催

アフリカ農村の土地収奪、食料安全保障、持続可能な開発などをテーマとした国際シンポジウムを複数回開催し、海外の識者との意見交換を行った。

## 4. 研究成果

### (1) ドドマ州での現地調査から

①Majeleko 村での家計調査や食料消費調査からは、まず、農家は 2～3 年に一度程度の割合で干ばつによる極端な食料（とりわけ主食であるトウモロコシの）不足にみまわれること、また富裕層から最貧層まですべての農家は何らかの方法で現金を調達して主食のトウモロコシを購入していることが明らかになった。現金収入源として、富裕層はウシをはじめとする家畜の販売に大きく依存し、最貧層は親族（とくに子供や孫）からの贈与に依存している。他方で中間層は木炭生産、小規模な商売、酒の販売、加工食品の販売など、小銭を稼ぐためのさまざまな方法を創出し、食料不足を乗り切っている。またこうした小規模な事業には多くのケースで女性が中心的な役割を果たしていることも判明した。

近年の土地利用形態の変化としては、これまで放牧のみに使われてきた季節湿地、川の沿岸部、未伐採の森林などへの農地の拡大が顕著である。季節湿地では乾燥した年でもトウモロコシの収穫があることから、とくに干ばつ時における村人の食料確保に貢献している。川沿いでは浅井戸を利用した乾季の野菜作物生産が重要な現金収入源となっている。山地の森林では違法な伐開が行われ、換金作物であるゴマが栽培されてきた。また家

畜が一部の富裕層に集中する傾向があり、そうした「ウシ持ち」世帯は優良農地や牧草地の確保のため積極的に土地の買収を進めている。

主食穀物すら自給できずに現金で購入せざるを得ないという事情により、村人はさまざまな手段で必要な現金を確保しようと日常的に努めている。近年複数のマイクロファイナンス機関が登場して村人への貸付を行い、その借金の返済のために土地を村内の富裕層に売却する者が増えている。またインフォーマルな *vikoba* と呼ばれる頼母子講グループが急速に増えており、その大部分は女性により組織されている。

②タンザニア人投資家や移民による土地囲い込みが深刻化している *Itiso* 地区においては、農地の拡大と土地不足についての聞き取り調査を広範囲に実施した。その結果、これまでは農耕用に使われてこなかった谷間の湿地帯が農地として開拓されつつあり、牧畜民との間の抗争が激化していることが判明した。その背景にはトラクターの入手を容易にした農業近代化政策がある。また商業化された「農牧」という生業形態が、農と牧が相乗作用的に規模を拡大させるという悪循環を生み出し、事態を悪化させていることが判明した。

③19世紀まで遊動的な狩猟採集生活を行ってきたサンダウェ人がすむ *Farkwa* 地区においては、農牧民スクマが流入して湿地帯に大量の水田を開墾し、先住のサンダウェや牧畜民ダトーガとのあいだで衝突が起きていることが明らかになった。またダム開発に伴う住民の移転計画については、農地の土壌や地形の特性によって栽培する作物が変化することから、とくに農地の移転について住民が大きな懸念をいっていることが判明した。砂地でのトウジンビエ栽培をおこなう人びとと季節湿地でのコメ栽培をおこなう人びととが暮らす当該地域では、「だれが」「どこへ」移住するのかということが、今後の食料生産を左右する大きな課題となっている。

## (2) NGO との協働

①Majeleko 村の現地調査は、ドドマ州で長年農村開発の仕事に携わってきた NGO である EGJ と共同で行われた。これまでの調査を踏まえて、EGJ とともに環境保全型農業や植林を普及させる実践的なプロジェクトが Majeleko 村を中心に立ち上げられた。

②ドドマ州 *Itiso* 地区では、環境や土地の権利などに関する問題について住民へのサポート活動を行っている DONET の案内で、土地をめぐる複雑な対立に直面する地域住民を訪問した。さらに隣接するマニャラ州 *Kiteto* 県では、牧畜民マサイの人権保護活動を行っている NGO の案内で、トラクター農民との大規模な土地紛争が起こっている現場を DONET とともに視察した。*Kiteto* 県の土地収奪の事例では、(地方政府を含む) 複数の利害関係集団がからみ、単純な牧畜民と農民と

の対立とは捉えられないことがわかった。

③主都ダルエスサラームにおいては、土地収奪や人権問題にかかわる NGO (*Envirocare*, *HAKIARDHI*, *Legal Human Right Centre* など) でヒアリングを行い、タンザニア国内のケーススタディ等の資料を入手した。

## (3) 国際シンポジウムや学会発表など

①2016年2月に他の科研チーム(「アグリフードレジーム再編下における海外農業投資と投資国責任に関する国際比較研究」研究代表者久野秀二)と合同で土地収奪に関する国際シンポジウムを京都で開催した。そこでは土地収奪の事情に詳しい *Andreas Neef* 教授(オークランド大学)を招聘し、土地収奪を規制するための政策的枠組みの可能性について報告をいただいた。

②2016年8月上旬にカナダのトロントで開催された世界農村社会学会において鶴田・池上が座長となり、分担者の坂井真紀子も参加して、アフリカの農業近代化を主題としたセッションを実施した。

③2016年8月下旬にドドマ大学で農牧民の食料安全保障と土地収奪に関する研究集会を開催し、代表者の鶴田と分担者の杉村、現地研究協力者の *Mwamfupe* 教授のチームが参加した。

④2016年12月にアフリカ農村農業問題の権威である *Goran Hyden* フロリダ大学名誉教授を京都へ招聘し、4日間にわたる会議を開くことができた。その成果は *Proceedings* としてまとめられるとともに、その一部は2019年に *Hyden* 教授と杉村・鶴田を編者として *Routledge* から刊行予定である。

⑤2017年2月にはオークランド大学の *Neef* 教授をドドマに招聘してシンポジウムを開き、その成果を *Proceedings* としてとりまとめた。*Proceedings* には *Neef* 教授のタンザニアの土地収奪に関する論考とともに、*Mwamfupe* 教授のチームによる、*Itiso* 地区での土地収奪に関連するものを含む複数の論文が収録された。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計16件)

① *TSURUTA, Tadasu and SUGIYAMA, Yuko*. 2018. “Coping with *Njaa* (Food Shortage): Food Insecurity and Household Strategies among Agro-Pastoralists in Central Tanzania,” 近畿大学農学部紀要, 51: 11-22. 査読あり

② 八塚春名. 2017 「タンザニア、土地不足とダム建設をめぐる人びとの葛藤」『電子マガジン *SYNODOS*』2017年4月28日配信, <https://synodos.jp/international/19644> 査読なし

③ 坂井真紀子. 2017. 「アフリカ農村における現金の貸し借りの歴史(2)ー植民地以前のローカル金融とその変化」『東京外国語大学論集』95: 171-187. 査読なし

④ 坂井真紀子. 2016. 「アフリカ農村における金銭の貸し借りの歴史ーマイクロファイ

ナンスの源流-』『東京外国語大学論集』92: 213-226. 査読なし

⑤ YATSUKA, Haruna. 2016. “Historical Interaction with Neighbors from the View of Livelihood Change: A Study of the Sandawe of Tanzania,” Kazunobu Ikeya and Robert K. Hitchcock (eds.) *Hunter-Gatherers and their Neighbors in Asia, Africa, and South America: Senri Ethnological Studies* 94: 81-105. 査読あり

⑥ IKEGAMI, Koichi. 2015. “Corridor Development and Foreign Investment in Agriculture: Implications of the ProSAVANA Programme in Northern Mozambique”, *Land grabbing, conflict and agrarian-environmental transformations: perspectives from East and Southeast Asia, An International Academic Conference*, 5-6 June 2015, Chiang Mai University, Conference paper; Website of ISS ([http://www.iss.nl/fileadmin/ASSETS/iss/Research\\_and\\_projects/Research\\_networks/BICAS/CMC\\_P\\_30-IKEGAMI.pdf](http://www.iss.nl/fileadmin/ASSETS/iss/Research_and_projects/Research_networks/BICAS/CMC_P_30-IKEGAMI.pdf)), 査読なし

⑦ 池上甲一. 2015. 「モザンビーク北部における大規模農業開発事業とランドグラブ」『アフリカ研究』88: 29-35. 査読なし

⑧ 池上甲一. 2015. 「中国の対外農地・農業投資」、『農業と経済』81-11: 128-129. 査読なし

⑨ YATSUKA, Haruna. 2015. “Reconsidering the “Indigenous Peoples” in the African Context from the Perspective of Current Livelihood and its Historical Changes: the Case of the Sandawe and the Hadza in Tanzania”, *African Study Monographs* 36 (1): 27-48. 査読あり

⑩ 池上甲一. 2015. 「スマート農業の生み出す世界—その得失をどう評価するか」『農業と経済』81-3: 5-18. 査読なし

⑪ TSURUTA, Tadasu. 2014. “Green Revolution from Comparative Perspective: Between Asian and African Experiences”, *Asian Rural Sociology*, V-1: 48-54. 査読あり

〔学会発表〕(計 30 件)

① TSURUTA, Tadasu. “Cultural Uniqueness of Moral Economy in Africa,” *7th European Conference on African Studies*, 1st July 2017, University of Basel, Switzerland.

② 八塚春名. 「『雑草』を増やす—タンザニア、サンダウェによる耕地のニセゴマ管理」日本アフリカ学会第 54 回学術大会、信州大学、2017 年 5 月 20 日-21 日.

③ TSURUTA, Tadasu. “Uncaptured Peasantry in Africa from Comparative and Historical Perspectives”, *7th International Workshop on Africa Moral Economy with Professor Goran Hyden: Peasant Economy of Africa in Comparative and Historical Perspectives*, 9th December 2016, Shiran Kaikan, Kyoto.

④ SUGIMURA, Kazuhiko. “Debate on African Peasantry in the 1980s and the World of Agro-pastoralism”, *7th International Workshop on Africa Moral Economy with Professor Goran*

*Hyden: Peasant Economy of Africa in Comparative and Historical Perspectives*, 9th December 2016, Shiran Kaikan, Kyoto.

⑤ YATSUKA, Haruna. “Moral Economy and Flexibility of Livelihood Strategy in Sandawe Society, Tanzania”, *7th International Workshop on Africa Moral Economy with Professor Goran Hyden: Peasant Economy of Africa in Comparative and Historical Perspectives*, 9th December 2016, Shiran Kaikan, Kyoto.

⑥ SAKAI, Makiko. “A Critical Analysis of Tanzania’s Kilimo Kwanza (Agriculture First) Policy”, *7th International Workshop on Africa Moral Economy with Professor Goran Hyden: Peasant Economy of Africa in Comparative and Historical Perspectives*, 11th December 2016, Kyoto University.

⑦ SUGIMURA, Kazuhiko. “Endogenous Development of Agro-pastoralist Societies in Africa”, *7th International Workshop on Africa Moral Economy with Professor Goran Hyden: Peasant Economy of Africa in Comparative and Historical Perspectives*, 11th December 2016, Kyoto University.

⑧ TSURUTA, Tadasu. “Cultural Uniqueness of the Economy of Affection in Africa”, *7th International Workshop on Africa Moral Economy with Professor Goran Hyden: Peasant Economy of Africa in Comparative and Historical Perspectives*, 11th December 2016, Kyoto University.

⑨ TSURUTA, Tadasu. “Dual Dilemma of Agro-pastoralism in Central Tanzania: In the Face of Land Scarcity and “Agrarian Bias “of Rural Development Policy”, *Dodoma Workshop on Agro-pastoral Societies in Transition: Cash Economy, Urbanization, and Land Issues in Central Tanzania*, 27th August 2016 at VETA, Dodoma, Tanzania.

⑩ SUGIMURA, Kazuhiko. “An Overview of a New Book entitled “Endogenous Development, Moral Economy, and Globalization in Agro-pastoral Communities in Central Tanzania”: Looking Back on Our Past Research on Agro-pastoralism in Dodoma”, *Dodoma Workshop on Agro-pastoral Societies in Transition: Cash Economy, Urbanization, and Land Issues in Central Tanzania*, 27th August 2016 at VETA, Dodoma, Tanzania.

⑪ TSURUTA, Tadasu. “Making and Unmaking the “Green Revolution”: From Asian and African Experiences”, *International Rural Sociology Association, XIV World Congress of Rural Sociology*, 12th August 2016, Ryerson University, Tronto, Canada.

⑫ SAKAI, Makiko. “Critical Analysis of Tanzania’s “Kilimo Kwanza (Agriculture First)” Policy”, *International Rural Sociology Association, XIV World Congress of Rural Sociology*, 12th August 2016, Ryerson University,

Tronto, Canada.

⑬ IKEGAMI, Koichi. “Evaluation of Green Revolution of Rice Farming in the Kilimanjaro Region, Tanzania,” *International Rural Sociology Association, XIV World Congress of Rural Sociology*, 12th August 2016, Ryerson University, Tronto, Canada.

⑭ 杉村和彦. 「東アフリカ農牧民社会の現代の変容：現金経済・都市化・土地問題①」日本アフリカ学会第 53 回学術大会、日本大学生物資源科学部、2016 年 6 月 5 日.

⑮ 坂井真紀子. 「東アフリカ農牧民社会の現代の変容：現金経済・都市化・土地問題③」日本アフリカ学会第 53 回学術大会、日本大学生物資源科学部、2016 年 6 月 5 日.

⑯ 鶴田 格. 「東アフリカ農牧民社会の現代の変容：現金経済・都市化・土地問題④」日本アフリカ学会第 53 回学術大会、日本大学生物資源科学部、2016 年 6 月 5 日.

⑰ IKEGAMI, Koichi. “Corridor Development and Foreign Agricultural Investment: Japan’s Commitment in Mozambique”, *Kyoto International Symposium on Global Land Grabbing and Regulatory Regime: A Look from Japan and Far East*, 21 February 2016, Campus Plaza Kyoto.

⑱ YATSUKA, Haruna. "The Role of Mobility in Changing Subsistence: A Case Study of the Hadza in Ethnic Tourism in Tanzania," *11th meeting of the Conference on Hunting and Gathering Societies*, 7 Sep. 2015, University of Vienna, Austria.

⑲ IKEGAMI, Koichi. “Corridor Development and Foreign Investment in Agriculture: Implications of the ProSAVANA Programme in Northern Mozambique”, *Land grabbing, Conflict and Agrarian-environmental Transformations: Perspectives from East and Southeast Asia, An international Academic Conference*, 5-6 June 2015, Chiang Mai University, Thailand.

⑳ 坂井真紀子. 「マイクロファイナンスの歴史的考察～アフリカ農村における金銭の貸借の源流を求めて (2)」日本アフリカ学会第 52 回学術大会、2015 年 5 月 24 日.

㉑ 八塚春名. 「タンザニア、サンダウエによる *Albizia tanganyicensis* の認知と利用をめぐる謎」日本アフリカ学会第 52 回学術大会、犬山国際観光センター、2015 年 5 月 23 日.

㉒ TSURUTA, Tadasu. “Green Revolution from Comparative Perspective: Between Asian and African Experiences,” *5th International Conference Asian Rural Sociology Association*, 3 September 2014, National University of Laos.

㉓ IKEGAMI, Koichi. “What is happening in the Northern Mozambique under the ProSAVANA Program and Agricultural Growth Corridor: An Implication to the Large Scale Land Acquisition in the Southeast Asia”, *18th World Congress of Sociology*, 13-19 July 2014, Pacifico Yokohama Convention Complex, Yokohama.

㉔ YATSUKA, Haruna. “Change in Honey Collecting in Rural Africa and Global Honey Market: A Case Study among the Sandawe Society in Tanzania”, *14th Congress of the International Society of Ethnobiology*, 1st to 7th July 2014, The Ugyen Wangchuck Institute for Conservation and Environment, Bumthang, Bhutan.

〔図書〕 (計 16 件)

① TSURUTA, Tadasu. (in print) “The Impasse of Contemporary Agro-Pastoralism in Central Tanzania: Environmental Pressures in the Face of Land Scarcity and Commercial Agricultural Investment”, in Jon Abbink (ed.) *The Ecological Crunch in Africa: Growth Narratives vs. Local Environmental Realities*. Palgrave Macmillan.

② 八塚春名. 2018. 「生業変容と土地をめぐる権利—タンザニアの狩猟採集民ハッザとサンダウエ」 深山直子・丸山淳子・木村真希子編『先住民からみる現代世界』昭和堂, pp. 240-244.

③ 八塚春名. 2017. 「狩猟採集から複合生業へ—タンザニアのサンダウエ社会における農耕と家畜飼養の展開」池谷和信 (編)『狩猟採集民からみた地球環境史—自然・隣人・文明との共生』, 東京大学出版会, pp.169-174.

④ TSURUTA, Tadasu. ed. 2017. *Proceedings of Dodoma Workshop on Land Problems in Central Tanzania* (26th February 2017, at African Dreams Hotel, Dodoma, Tanzania), Kindai University, pp. 1-58.

⑤ TSURUTA, Tadasu. ed. 2017. *Proceedings of 7th International Workshop on Africa Moral Economy with Professor Goran Hyden: Peasant Economy of Africa in Comparative and Historical Perspectives* (9th to 12th December 2016, Kyoto, Japan), Kindai University, pp. 1-116.

⑥ S. Maghimbi, K. Sugimura & D. Mwamfupe (eds.) 2016. *Endogenous Development, Moral Economy, and Globalization in Agro-pastoral Communities in Central Tanzania*. Dar es Salaam: Dar es Salaam University Press, pp.1-236.

⑦ SUGIMURA, Kazuhiko. 2016. “Contemporary Perspectives on Endogenous Development and Moral Economy in Agro-pastoral Communities in East Africa” 前掲 Maghimbi, S. ほか編, pp.1-20.

⑧ SUGIMURA, Kazuhiko. 2016. “Education and Agro-pastoral Society-the Crossroad of Moral Economy” 前掲 Maghimbi, S. ほか編, pp.202-214.

⑨ SUGIMURA, Kazuhiko & Davis Mwamfupe. 2016. “Conclusion: The wealth of Moral Economy in Agro-pastoral Societies in Central Tanzania” 前掲 Maghimbi, S. ほか編, pp.215-231.

- ⑩ TSURUTA, Tadasu. 2016. “Agriculture-pastoralism Complex in Historical Perspective: A Case of Northern and Central Tanzania.” 前掲 Maghimbi, S.ほか編, pp.37-58.
- ⑪ SAKAI, Makiko. 2016. “Famine and Moral Economy in Agro-Pastoralist Society : 60 Years of Rainfall Data Analysis”, 前掲 Maghimbi, S.ほか編, pp.101-118.
- ⑫ 池上甲一. 2016. 「土地収奪と新植民地主義—なぜアフリカの土地はねらわれるのか—」 石川博樹・小松かおり・藤本武編『食と農のアフリカ史 現代の基層に迫る』昭和堂、pp. 325-345.
- ⑬ 鶴田 格. 2016. 「緑の革命とアフリカ：トウモロコシを中心に」 前掲石川博樹ほか編, pp.237-252.
- ⑭ 杉村和彦. 2016. 「東アフリカ農牧民から見た世界史像」前掲石川博樹ほか編、pp.135-151.
- ⑮ 八塚春名. 2016. 「外生の変容をかわす生業戦略の柔軟性—タンザニアの狩猟採集民と多民族国家」高橋基樹・大山修一編『アフリカ潜在力 3 開発と共生のはざまで—国家と市場の変動を生きる』京都大学学術出版会、pp. 277-308.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

鶴田 格 (TSURUTA, Tadasu)  
近畿大学・農学部・教授  
研究者番号：60340767

### (2) 研究分担者

池上 甲一 (IKEGAMI, Koichi)  
近畿大学・農学部・教授  
研究者番号：90176082

杉村 和彦 (SUGIMURA, Kazuhiko)  
福井県立大学・学術教養センター・教授  
研究者番号：40211982

坂井 真紀子 (SAKAI, Makiko)  
東京外国語大学・総合国際学研究院・准教授  
研究者番号：70624112

### (3) 連携研究者

八塚 春名 (YATSUKA, Haruna)  
日本大学・国際関係学部・助教  
研究者番号：40596441